

# 地域福祉懇談会 意見等の概要

平成15年12月

鎌倉市地域福祉計画策定委員会

鎌倉市保健福祉部

鎌倉市社会福祉協議会

## 地域福祉懇談会が開催されました

❁ 貴重なご意見等をお聞かせいただきありがとうございました ❁

鎌倉市策定委員会地域福祉計画策定委員会で策定いたしました『鎌倉市地域福祉計画骨子案』につきまして、「共に生き、支え合う地域づくり」を共通テーマに、下記の日程で地域別の懇談会を開催しました。

市民の皆さんから、『骨子案』に対する貴重なご意見・ご要望をいただきました。

### ❁ 地域福祉懇談会の開催結果 ❁

地 域	開 催 日	開 催 場 所	参加人数
鎌倉地域	平成 15 年 11 月 22 日(土)	鎌倉市福祉センター	17人
腰越地域	平成 15 年 11 月 11 日(火)	腰越学習センター	27人
深沢地域	平成 15 年 11 月 3 日(月)	深沢学習センター	25人
大船地域	平成 15 年 11 月 16 日(日)	大船学習センター	21人
玉縄地域	平成 15 年 11 月 23 日(日)	玉縄学習センター	29人
参 加 者 合 計			119人

## 地域福祉懇談会での意見の概要について

《鎌倉地域》 《腰越地域》 《深沢地域》 《大船地域》 《玉縄地域》

### 【懇談会での意見】

- ・精神障害者に対する行政を含めた市民全体の認識・理解が遅れている。もっと、精神障害者に対して積極的な理解しようとする姿勢がほしい。
- ・精神障害者理解のために、様々な媒体を活用した広報に努める必要がある。
- ・行政としても、職員はもちろんのこと市民向けの研修・講座等を開催してほしい。
- ・精神障害児者、知的障害児者、身体障害児者を含めた障害者全般について、当事者及びその親からの意見発信の場、一般市民の研修の場を行政としても設定してほしい。
- ・障害児の数自体が高齢者などと比較して少ないが、決してニーズがないわけではない。当事者の親が積極的に意見を言う必要を痛感している。障害児の数が少ないために、地域横断的なものになってしまうが、現在親同志のネットワークを作っている最中であり、今後他団体との交流も深めながら、活動を展開していきたいと考えている。
- ・地区社協の活動が地域の中に十分認知されていない。町内会の役員でさえ、地区社協の役割が認識されていない。もっと、地区社協の活動を市民に浸透させていくことが必要と考える。
- ・地域福祉を実践する人材はあくまでも、そこに住む市民一人一人が主体者であり、自分には何ができるのかをみんなで考えていくことが大切である。その上で、相互のネットワークを図るべきで、仕組みができて、それを支える人材がいなければ機能しないのではないかと。
- ・人材を掘り起こしていくためには、各団体の努力は不可欠であるが、もっと町内会でも関心を持ってもらい、その協力がなくなかなか人材としての裾野が広がっていかないと思う。

## 【骨子案に対する意見】

骨子案	意見・要望等
課題 1 《少子高齢化の進行》	障害児者の問題をもっと多くの人にきちんと認識してもらうために、高齢者及び子育てに加えて障害児者も文言として加えてほしい。
課題 2 《ネットワーク化への取り組み》	ネットワーク化を構築するにあたり、高齢者・障害者・子育て中の親などの当事者団体も組み入れて上でのネットワーク化を図るべきである。
目標 - 2 《新しい『向こう三軒両隣』の関係を築いていきます》	「子育てや心身の障害への不安…」において、心身の障害そのものに対する不安と誤解される恐れがある。障害を持って暮らしていくことへの不安であり、適切な表現に変更してほしい。
目標 - 2 《当事者団体への支援を充実します》	当事者団体への支援充実は必要である。しかし、当事者団体としては、支援を受ける受身だけではなく、広く市民に自分たちのことを理解してもらえようような声を、今まで以上に発信していく必要がある。
目標 - 4 《地域の特性を生かした互助制度を支援します》	地域福祉を進めるためには、そこに住む市民一人ひとりが参加しやすい仕組みづくりが必要であり、そのためには、それぞれの地域の特性に応じた「地域通貨」のような制度の導入も、各地域で検討していく必要があると思う。
目標 - 1 《市社会福祉協議会の「情報収集・提供機能」及び「相談援助機能」を充実・強化します》	市と市社会福祉協議会の連携強化はもちろんであるが、市社会福祉協議会と地区社会福祉協議会の連携を強化していかなければ機能を十分に発揮できないのではないかと。

## 地域福祉懇談会での意見の概要について

《鎌倉地域》 《腰越地域》 《深沢地域》 《大船地域》 《玉縄地域》

### 【懇談会での意見】

- ・地域福祉計画骨子案での趣旨は理解できるが、そこに書かれた内容を「誰が」「どうやって」実現していくのか。具体的な取組みとなると課題は山積みである。
- ・地域での交流を深めていくことが、地域福祉推進には絶対必要条件であると考えるが、ただ交流を深めましょうというだけではだめで、何か共通の話題が必要だ。例えば、防災ということをもとに共通したテーマとして交流が深められないかと考えている。
- ・災害時における救助・避難ということを考えると、日頃から地域の中で、どこにどのような援助を必要としている人がいるのかを情報として集約しておく必要があると思う。
- ・個人情報収集は大変重要であるが、現実的には収集することが非常に困難な状況にある。個人情報を提供する側が、プライバシーのことと思わせない環境を整えていかなければ、個人からの情報提供はあり得ないのではないか。
- ・介護保険制度が導入されたことで、地域の独居・寝たきり高齢者等の情報が民生委員等を通じて入手することが少なくなり、直接ケアマネージャー等へと流れる状況となっているようである。
- ・地域の中にはまだまだ社協の存在を知らない人が大勢いる。福祉を必要としている人も相談窓口を知らずに困っている状況にある。情報提供をもっと手段を工夫して行わなければならない。
- ・世代間交流事業をもっと活発化したいが、実施する場所がないのが現状で、場所の確保は重要な課題である。
- ・これから高齢者をどう支えていくのか。75歳以下はまだまだボランティアとして支えていく年齢で、支えられるような年齢ではない。少子化の進行により、高齢社会を支えていく人が少なくなる。高齢化の中で互いに支えあう仕組みを考える必要有り。

## 【骨子案に対する意見】

骨子案	意見・要望等
課題 2 《ネットワーク化への取り組み》	地区社会福祉協議会の活動を展開するにあたり、地域のボランティア団体等と連携を組んでいくことは、非常に大切なことだと認識している。
目標 - 2 《新しい『向こう三軒両隣』の関係を築いていきます》	新しい「向こう三軒両隣」という発想はいいが、何か共通のテーマ・話題がないと、こうした関係を作ることは難しいのではないかと。
目標 - 2 《新しい『向こう三軒両隣』の関係を築いていきます》	民生委員児童委員の立場として、町内会との関係を大切に考えているが、町内会自体が役員が毎年のように変わってしまい、相談者が固定せず困っている。 町内会に「福祉担当部門」を作ってもらうことは、非常に喜ばしいことと思う。
目標 - 6 《人権を尊重し、人との出会いを大切にするまちづくりを推進します》	人権を尊重することは当然であるが、プライベートの情報を気兼ねなく提供できる地域の雰囲気づくりを行っていくことが大切である。
目標 - 1 《市社会福祉協議会の「ボランティアセンター」機能を強化します》	少子高齢社会の進行により、社会を支える人材が不足してくることが予測され、そのことへの対応として、きちんとした仕組みづくりが急務と考える。
目標 - 1 《既存の福祉関連施設や学校施設の活用に取り組みます》	地域の色々な年代の人達が集える共通の場は必要であり、既存の施設ではなく、もっと身近な場所にあればよいと考える。
目標 - 1 《市社会福祉協議会の「情報収集・提供機能」及び「相談援助機能」を充実・強化します》	「地区社協だより」を全戸配布したが、配布後しばらくは問い合わせ等あったが、それ以降は全く反応がない。具体的な情報提供方法をもっと工夫していく必要がある。

## 地域福祉懇談会での意見の概要について

《鎌倉地域》 《腰越地域》 《深沢地域》 《大船地域》 《玉縄地域》

### 【懇談会での意見】

- ・地域福祉計画の趣旨はよくわかるが、実際に地域で実践していくにあたり、どこから手を付けていったらいいのかがわからない。
- ・町内会活動をやってもなかなか人が集まらない状況である。
- ・プライバシーの問題が地域福祉を進める上で、ネックとなっているのが現状であり、この問題をどう解決していこうか日々頭を悩ませている。
- ・ファミリーサポートセンターは、非常にいいシステムだと思う。このようなシステムが、各地区社協単位で広がっていけばいいと思う。
- ・地区社協をもっと組織的にも機能的にも強化していく必要がある。そのための一つとして、町内会組織をもっと専門的分野を設置して地区社協との関係を深めていくことが必要だ。
- ・深沢地区社協には、老人会が加入していないが、地区社協の活動の充実を図るためにも、是非加入させてほしい。
- ・深沢小学校と町内会との関係は比較的良好で、体育館を借用して子ども会と老人会が中心となって地域の人達も巻き込んだ世代間交流事業を行っており、今後も継続していく予定である。
- ・町内会が中心となった地域の「お祭」を実施している。地域の人達が互いの交流を深めていくためには、このようなイベントが効果的であると思う。
- ・地域の中で、子どもの数が目に見えて減ってきている。
- ・新しくできた公団住宅の人達は、地域とのつながりをあまり歓迎していないような雰囲気がある。そこに住む人達にも老人会に加入してほしいと考えているのだが。
- ・町内会としては、町内の高齢者の見守り活動を行っているが、各家庭のプライバシーの壁が障害となって、なかなか活動が展開できない。

## 【骨子案に対する意見】

骨子案	意見・要望等
目標 - 2 《新しい『向こう三軒両隣』の関係を築いていきます》	地区社会福祉協議会の活動を強化するためにも、それを支える町内会の存在が重要であり、その意味でも、町内会に専門分野の「福祉部門」を設置していくことは、非常に重要なことと考える。
目標 - 3 《地域での世代間交流を推進します》	プライバシーの問題を緩和するためにも、地域の人達がもっと交流していくことが必要と考える。そのための手段として、世代間交流事業の推進は大切で、深沢地域と学校との良好な関係を生かして、今後もより活発に活動していくべきと考える。
目標 - 4 《地域での福祉教育を推進します》  目標 - 4 《(仮称)福祉政策専門委員会を設置します》	骨子案全体について言えることだが、表現が難しく、市民にはわかりづらいと思う。特に、目標 - 4と目標 - 4は、趣旨はわかるが、理解しづらいと思う。
目標 - 5 《(仮称)地域福祉推進委員会を創設します》	地区社会福祉協議会がもっと組織的に強化され、充実した事業が展開できれば、「地域福祉推進委員会」のような組織を新たに作っていく必要はないと考える。



## 地域福祉懇談会での意見の概要について

《鎌倉地域》 《腰越地域》 《深沢地域》 《大船地域》 《玉縄地域》

### 【懇談会での意見】

- ・ 少子化の時代確かに赤ん坊を抱っこする機会は減っていると思う。中高生が赤ちゃんと親しむ機会が設定できればいいと思う。
- ・ こども局で実施予定のアンケートについて、子どもを産める環境としていくことを細かな質問項目として設定し、何を望んでいるのかを明確にしてほしい。
- ・ 少子化の問題について、昔の育児環境と今は根本的に違う。子どもを養育していくために、現在は莫大な経費がかかっている。少子化に歯止めをかけるためには、行政として手当等の経済的支援をしていかなければ無理だと思う。
- ・ 人権問題については、町内会としても非常に頭を悩ましている。ふれあいの街づくりを進めていく上で、このことがネックとなってなかなか進めない現状がある。具体的にどのように進めていくべきなのか、行政からも知恵を借りたいところだ。
- ・ 若い世代の人達を集めることは難しいことだが、町内会の行事として子ども中心の行事を実施したら、子どもと一緒にその親も出てきてくれた。このように、既存のワクに囚われず、色々な工夫をしてみることが大切だと思う。
- ・ 現在、個人の方の善意により場所の提供を受けて、高齢者のための集いの場を運営している。ボランティアの方々の協力により運営しているが、いろんな人の参加により場を盛り上げていきたいと考えている。
- ・ 市内はまだまだバリアフリー化が遅れているようで、障害者にとっては非常に住みにくいというのが率直な感想である。また、地域住民との交流を深めたいと思うが、なかなかそのような雰囲気ではなく交流が図られていないのが現状である。
- ・ 年寄りも若い人も、近所との交流を嫌う方が多い。買物なども近所の人とあわないように出かけている。こういう無用心な世の中で1人であることを知られたくないようだ。民生委員として地道な活動により11年かけて、ようやくそういう人も心を開いてくれる。向こう三軒両隣の関係をつくることは、非常に地道な努力と時間がかかるものだと思う。岩瀬町内会では、交流の輪を子どもから広げていこうと努力している。
- ・ 今泉さわやかセンターが、子どもの日常的なたまり場として活用することができればいいと思うのだが。

## 【骨子案に対する意見】

骨子案	意見・要望等
目標 - 2 《新しい『向こう三軒両隣』の関係を築いていきます》	大船という地域は、他の地域と比較して人の出入りが多い方だと思うが、そのため新しく転入してきた人との交流を図ることが難しい。
目標 - 2 《新しい『向こう三軒両隣』の関係を築いていきます》	向こう三軒両隣という関係を作っていくことは非常に大切だと思うが、具体的にどのような方法で実現していけばいいのかがわからない。 具体的な取組み事例的なものを、計画書の中に例示してほしい。
目標 - 4 《地域での福祉教育を推進します》	中高生が、赤ちゃんと親しむ機会が設定できればとてもよいと思うが、体験場所として「家庭」を一つとして設定しているが、現実的には協力を得るのは難しいのではないかと。
目標 - 6 《人権を尊重し、人との出会いを大切にするまちづくりを推進します》	人権を尊重していくことは当然のことであるが、現実的には町内会長として、人権・プライバシーを尊重した中で、町内会活動がどこまで立ち入った活動が可能なのか、どういった方法で取り組んでいくべきなのか、いつも悩んでいる。
目標 《地域で集い、憩え、学べる場づくり》	目標 に書かれている内容は非常にいいことだと思う。しかし、市内全部で実施することは難しく、それぞれの地域特性に応じた対応を検討する必要があると思う。
目標 - 1 《既存の福祉関連施設や学校施設の活用に取り組みます》	今泉さわやかセンターが、高齢者のための施設としてあるが、地域の子どもたちの日常的なたまり場として活用できないか。

## 地域福祉懇談会での意見の概要について

《鎌倉地域》 《腰越地域》 《深沢地域》 《大船地域》 《玉縄地域》

### 【懇談会での意見】

- ・精神障害者の場合は、ある程度の年齢になってから障害が発生するもので、親の年齢を考えると、その負担の大きさはかなりなものである。しかしながら、精神障害に対する社会の理解もまだ浅く、福祉の面でも他の障害に比べると遅れている。精神障害に対する理解、人材育成、制度面の充実等もっと目を向けてほしい。
- ・自分の住む自治会では、自治会内部で問題を解消しており、行政に頼らずがんばっている。自治会費の一部から地区社協の会費を払っているが、非常にやりくりが大変である。地区社協には、それなりの会費を払っているのであり、もっとがんばってほしい。
- ・従来の地域福祉は、行政が主導で、市民は常に受身であり、現在もその意識が根強い。しかし、これからは地域と行政、自治会が一緒になって進めていくことが必要であり、そのためには、もっとより多くの市民の意見を聞く場を増やしていくことが必要だ。
- ・ネットワーク化は重要であるが、まずは今ある様々な機関、委員などといった役割を持った人が、小学校区ででもまとめてみる必要があると思う。その上で、どのようなネットワークが必要か検討していくべきと考える。
- ・地区社協をもっと活性化させるためには、色々な団体の人が集まって活動を支えていくことが必要である。それと同時に、地区社協・市社協・関係機関・行政などのそれぞれの役割分担を明確化させ、地域資源を効率的に活用していくことが必要である。
- ・ボランティアグループとして玉縄地区社協に属しているが、玉縄の場合には地区社協が非常によくまとめられている。しかしながら、このような活動をよりよいものにしていくために、やはり固定した活動場所がほしいというのが切実な願いとしてある。

## 【骨子案に対する意見】

骨子案	意見・要望等
目標 全般	目標及び活動計画については、どれも主語がなく、誰がやるのか、誰がまとめるのか、行政の役割は、などが不明確であり、全体的に抽象的で理解しづらいものになっている。
課題 7 《地域情報の活用とプライバシー保護》	プライバシーの問題から情報を行政から入手することは困難であるが、地域福祉を進めていくためには、情報の収集と活用がキーポイントとなる。情報の共有方法については、更なる議論が必要だ。
目標 - 4 《地域の特性を生かした互助制度を支援します》	地域通貨、エコマネーについては、まだ鎌倉でも実践例もなく、全国的な広がりもあまりない中で、ひとつの目標として掲げることができるか疑問である。
目標 - 1 《市社会福祉協議会の「情報収集・提供機能」及び「相談援助機能」を充実・強化します》	ネットワーク化していくことの重要性は認識しているが、だれがそのネットワークをコーディネートするのか。現状では、各地区社会福祉協議会が市社会福祉協議会の明確な指導のもと活動していくことが必要だ。